

事業名	令和4年度ワカメ養殖概況（増養殖技術研究）
予算区分	県単
事業実施期間	平成12年度～
担当者	（環境増養殖担当）笠井謙太郎、棚田教生
共同研究機関等	

<目的>

令和4年度の徳島県内のワカメ養殖概況及び種苗の有償配布状況についてとりまとめる。

<結果>

種苗生産～育苗

海面での育苗は、10月中旬以降に開始された。小鳴門海峡に位置する水産研究課鳴門庁舎の汲み上げ海水温はやや高め～平年並みに推移し（図1）、育苗開始目安の23℃を10月25日に下回った。種苗生産は比較的順調に進んだものの、育苗段階で食害による種苗の減耗、生長の遅れがみられた。

本養殖

播磨灘の北灘沿岸では11月8日から種付け作業が開始された。その後小鳴門海峡、紀伊水道沿岸でも順次行われ、1回目の種付け作業は比較的順調であった。

食害

小鳴門海峡の定点に設置した間欠駆動式カメラによりアイゴ、クロダイ、ウマヅラハギの出現を多数確認した。今年度は鳴門海域においてかつてないほどの食害が発生し、小鳴門海峡、紀伊水道沿岸の漁業者は種苗の差し直し作業に追われた。これまで食害の影響が比較的軽微であった里浦沿岸でも顕著な食害被害に見舞われた。ただし播磨灘の北灘沿岸では例年と変わらず食害はほとんどなかった。

色落ち

播磨灘、小鳴門海峡では、11月～12月はDIN濃度が近年では高い水準で維持され（図2）、良好な栄養塩環境となった。しかし1月に入りDIN濃度は急激に減少し、2μg-at/L前後の水準となった。それでも播磨灘沿岸では昨年よりも高い栄養塩濃度が維持されたため、漁期終盤の3月上旬まで色落ちは発生しなかった。小鳴門海峡、紀伊水道北部沿岸では目立った色落ちはなく、近年ではワカメの色合いは良好であった。紀伊水道南部沿岸の漁場では例年どおり色落ちが発生した。

生長・品質及び生産量

色調面は比較的良好であったが、北灘漁場を除いた鳴門海域では食害の影響が甚大であったため、生産量は例年と比べて減少したという声が多く聞かれた。北灘漁場では近年にない好漁であった。

ワカメ種苗の有償配布

高水温耐性株（鳴門椿）の配偶体を、5漁協の14名に配布した。その後、本養殖に利用したのは7漁協の34名であった。

<次年度の計画>

継続する。

<結果の発表・活用状況等>

特になし。

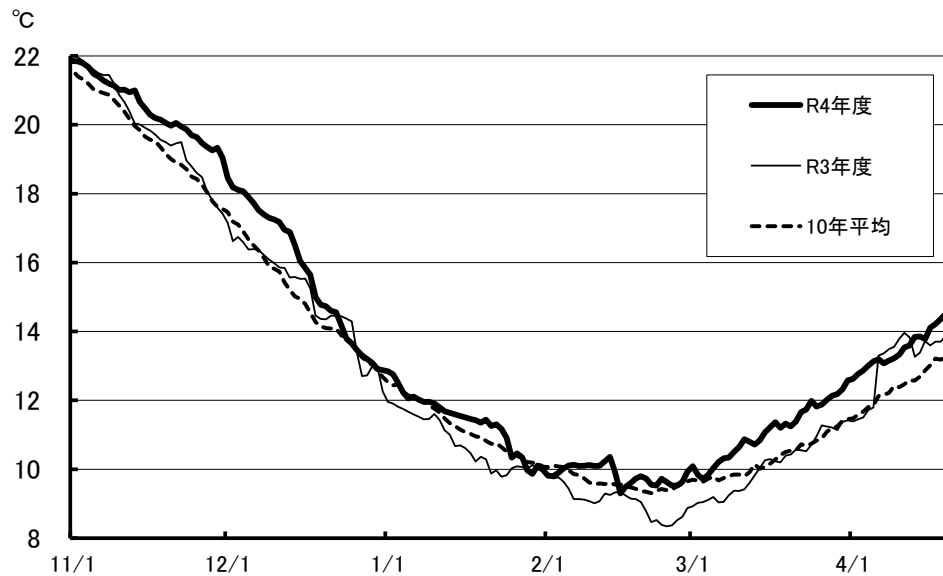


図 1. 水産研究課鳴門庁舎の汲み上げ海水温の推移

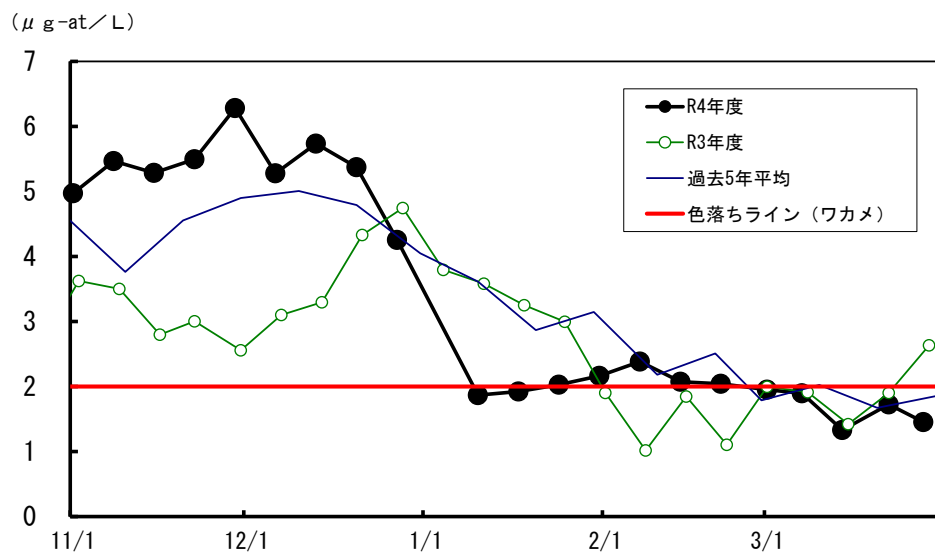


図 2. 水産研究課鳴門庁舎地先の DIN 濃度の推移